

## 農福連携へシンポ 江別市

農業と福祉の連携を目指すシンポジウムが27日、江別市で開かれた。

A共済総研高齢者社会福祉グループ主任研究員の濱田健司氏をゲストに招き、福祉事業者や農業者らが農福連携の現状や意義について議論した。連携によって、労働力不足の農業と、就労先が必要な福祉の両分野に利点が生まれることを確認。実現に向けた課題と解決策も探った。

特定非営利活動法人(NPO法人)ノーマライゼーションセンターによきによきが主催した。市や江別農福連携協議会などが共催。福祉事業者や行政の職員、農業者ら100人が参加した。

濱田氏は、農福連携の動きが高まっている背景として、全国の農家の6割が65歳以上となり、労働力不足になっていることを指摘。福祉分野では、障害者手帳を交付された人の6割が働く場がない現状を報告した。働く場のある障害者も時給100円程度であり、賃金の確保に向けても連携に意義があるとした。

高齢者やさまざまな理由で仕事に就けない生活困窮者と農業との連携も模索した。生活困窮者の就労支援に取り組むNPO法人コミュニティワーカー実践センターの穴澤義晴理事は、「農業はやったことの実績がすぐ見え、自分の収穫物の販売額も分かる」と魅力を指摘した。